

# 夜、塾でコンビニ弁当を食べている子供たちと「教養」

キーパーソンに聞く

教養学舎代表に聞く「子供と親の現代的教養」

2014年5月13日（火） 瀬川 明秀

学校ではない。学業補習を目的とする塾でもない。“子供のサードプレイス”“第三の学び舎（まなびや）”として注目され始めている「教養塾」。今年3月、名古屋市に開設した「エコル・ア・パンセ（教養学舎）」代表者である望月馨氏にいまなぜ教養なのか、“子供と親の教養”とは何か聞いた。

（聞き手は瀬川明秀）

——教養学舎という名前をお伺いして、ハタと考えたのですが、そもそも「教養」って何でしょう。学校での教科学習をベースに、社会や親友たちとの接触を通じて学び得るものを「教養」と考えている方々が多いと思うのですが、子供たちをみてきた専門家から見て、教養とは？ いまの学校が子供たちの教養習得に機能していない、ということでしょうか？

望月：小学校から高校まで、いまの教科学習カリキュラム中心の方法が、子供たちにとって無益だとかダメだとかは思っていません。そもそ



望月馨（もちづき・かおり）  
名古屋市生まれ、1987年に名古屋大

も大学での高等教育には中等教育までの下地が絶対的に必要ですし、学校での教科学習が円滑に進むことは子供たちにとって大きな自信になります。また、社会や親友たちを通じて学び得るものも「教養」としてとても重要な要素でしょう。ただ、それだけじゃないと考えています。

### ——それだけじゃない？

**望月**：私たちが言う「教養」とは、未知の課題・解決困難な事象に対処するためにあらかじめ身につけておくべき素養全般のことです。その素養を育むことに関与するのが、学校と親、そして第三の学び舎だと考えています。

私たちは学業成績を教養の1つの要素と位置づけ、とても重要ではあるけれども絶対視はしていません。先ほども言いましたが学業成績をあげることは子供の意欲や自信を高めるための手段にはしますが、目的にはしていません。

### ——なるほど。

子供が育つ上で大事な力は何かといえば、まずは自主的な学びを楽しむ力です。これを持たないまま「大学に進む」生徒たちが増えているのが、問題ではないかと思ってきました。

残念ながら、従来の学習塾の多くは、学校の試験での成績や有名校への進学実績をあげることに注力してます。個々の子供たちに学習の楽しさだけを伝える余裕はありません。前年度に出題されたその学校のテスト問題を解かせてできれば内申点を稼げるのでそれで良い、というやり方すらあるのです。

学法学部法律学科卒業後、医療系総合商社勤務などを経て大学受験塾にて国語講師業務を11年間勤める。仕事の傍ら地域発グローバル人材の育成を目指すボランティアグループなどの地域活動にも取り組んできた。2013年に医学博士、飲食店経営者らとともに株式会社教養学舎を設立。翌2014年知性創造学習塾「エコル・ア・パンセ」事業を開始。10歳から18歳までを対象に子供の成長と親のキャリア形成をトータルに支援するという理念のもと、従来型の教科学習だけではなく、教養科目に加え、食事の用意、送迎など、親向けのサポートを充実させているのが特徴

そんな状況を見ていると、親も学校も塾も変革し切れていないと痛感します。10代の子たちがグローバル社会における教養を身につけ一人前の社会人となっていく素地をつくる機会が著しく欠けているのです。今、親の世代である、20~40代が昔を振り返って比較することにはほとんど意味がありません。現代は、昔以上に時代が必要とする生きるための知恵を「学ぶ」機会が減っているのです。私たちはあえてその機会を設けようとしています。

## 教養を身につけるとは？

---

——では、どうやって教養を身につけるのでしょうか。いわゆる、昔ながらの古典からたっぷり書物を読ませる教育がいいのでしょうか（笑）。

**望月**：教養とは、知識量ではありません（笑）。方法はいろいろあります。例えば、10代の子たちにとって母国語の言語能力を高めること。それは思考能力そのものに直結します。ですから、私たちにとっては、読み・書き・話すの力を高めるトレーニングを積み上げることがとても大事です。こうしてコミュニケーション力を高めていくことで、さらに英語の文法の違いなどを学ぶ。また日々の社会的な知識も同時に学ぶ。そうした段階を踏んだ方がリテラシーが高まるので、当然教科ごとの学問的理解も早まるんですね。そうやって全教科で学んだこと、他者から聞いたこと、マスコミを通じて得た情報など、様々なものが溶け合っってその子なりの教養を形作っていくと考えます。

——なるほど、もう少し具体的なサービス科目内容を教えてくださいませんか。

**望月**：講師をしていて感じるここ数年の生徒気質の急激な変化に関し、社会経験が豊富な周囲の方々に私見を語ってみると、皆さん社会の第一線で働いておられる世代だけに、自分たちの頃と同じような学校教育では実現できない、もしくは役割が異なる別態様の教育の必要性を感じていらっしゃることが分かりました。中でも、若い世代のコミュニケーション能力、他者への想像力・共感力、精神的なタフさな

どの欠落ぶりに目を覆わんばかりの現状があるのが、今や進学塾内だけではないことも分かりました。このままでは、未来の老人として若者たちに養ってもらえそうにもありませんから、今なんとかしなくちゃ、と地域の大人たちが手を組んで、大切な財産を事業資金として提供するとか、医師としてのリアルな日常を語るとか、おいしくて飽きない夕食づくりにプロの腕と知恵をふるうとか、情報発信してユニークな人材を集めてくるとか、各々の得意分野をいかす次世代支援プログラムを始めたわけです。



たとえば教養科目プログラムを1日1時間設けていますが、その目標は、自分が一生懸命取り組んだこと、スポーツでも学業でもいいですが、その経験を日本語で、できれば英語でも、他人が共感できる形で伝える能力の育成です。さらに、そういう伝達の機会を自ら作ってしまうような実行力も育てたいです。

もちろん、学習塾ですから子供の本業である5教科学習プログラムも一日最低2時間あります。生徒自身の達成度を即座に俯瞰でき、そこから最小限必要なヒントを与えるという注文の難しい個別指導を実現するため、講師陣には弊社理念に共感していただき、かつ自律的な受験生生活を経て今も自律的な生き方を実践しているメンバーを揃えています。非常に優秀な彼らから私も日々学ぶことばかりですから、子供たちにとってはなおさらでしょうね。

## 夜 空き教室でコンビニのお弁当を食べている現実

---

——いろいろプログラムはありますが、「身体と心と栄養」のプログラムを柱に据えてあるところが興味深い。

**望月**：私たちの塾では、10歳から18歳まで同じ場所でそれぞれの学びを実践しますが、みんなで夕食を一緒にとることを基幹プログラムとしています。ゲスト社会人、アルバイト講師の学生（大学院生、大学生）と生徒たちが一緒に夕食を食べるのが決まりなんです。世代も立場も違う人たちが「同じ釜の飯」を食しながらゲスト社会人を囲む時間を共有するのは様々な人たちの様々な体験談を聞くためです。愛知県は企業勤めの方に海外赴任経験者が多いので、その方たちから生の体験がいっぱい聞けます。ゲスト不在の日には食事後に知的ゲームなどを楽しみますが、アルバイト講師の大学院生から10歳の児童まで一緒に取り組むというのは、珍しいかもしれませんね。グローバル社会だからこそ尊重すべき「多様性」というものを、身をもって学ぶ重要な時間です。ちなみにゲスト社会人のミッションは、次世代に伝えたい自分の経験を真摯に伝えること。資格経験不問で随時募集中です（笑）

——集団行動を求めることを嫌がる保護者も少なくないのでは。

**望月**：ええ。ただ、どんな塾を選ぶかは自由です。私たちは、寄宿舍のように皆で一緒にご飯を食べるといろいろ面白いことがありそうだけど、どう？という提案なんです。

まず知っていただきたいのは、今学習塾に通っている中高生たちの多くが、夜、空き教室などでコンビニのお弁当を食べている事実です。限られた友達と食べていたり、1人で毎日食べていたりする。私は長年、塾講師として、そんな淋しい光景を見てきました。「この子たち、身体も心も栄養が十分に摂れているかな」と気になっていました。では親が弁当を作って持たせればいいのか？でも親御さんもその時間、働いている方々が多いんです。昼と夜のお弁当をもたせるのか？夏場には

厳しいですよ。第一、母親ばかりに期待するのは気の毒です。名古屋という堅実な土地柄もあるのか、働くお母さんたちは「子供のためだからしょうがないですよ〜」と自分の働き方を抑えたりするようですが、それは私の期待する世の中と違います。個人の努力には限界があるでしょう。ならば、我々ができるお手伝いをしますから頼ってください、というのが我々の立場です。

それに、食事時間に会話が弾めば笑顔も連帯感も自然に生まれるでしょう。

——塾が終わった後の生徒の送りサービスもありますよね。御社のプログラムをみると、実は、「親向けのサポート」から生まれたのではないかと思いました。

**望月**：ええ。おっしゃる通り、教養学舎をつくる時は、思春期の子供をもつ母親向けのサービスを充実させようと、プログラムを設計していたんです。うちはシャワーブースまであるので食住完備ですよ（笑）。

塾講師時代から、優秀な女子生徒たちが将来若い母親になった頃には、彼女たちがキャリア形成につまづくような状況が解消されていけばいいなと思っていました。でも、母親への負担が大きく子供は増えない、女性登用は進まない。公的な子育て支援があっても概ね小6まででおしまいですから、接するのが難しい中学生以上の子を持つお母さんをサポートをしたかった。しかしながら、働く親より大学（院）生らが真っ先にこの塾の理念に反応してくれたというのは想定外で面白い現象ですね。この地域が名古屋大学を始め大学が多いエリアだからなのではないでしょうか。

——大学生がいまの教育制度の矛盾を一番実感しているからでは？

**望月**：かもしれません。25歳から18歳ぐらいの若者たちの、鋭い指摘が一番参考になります。また、大学生・大学院生たちも、子供たちと接するのも当然楽しいので、各界からのゲスト社会人らから薫陶を受けたいのだと思います。

## 「教養は大事、でも悠長なこと言ってもらえないのよ」

——なるほど…それはそれで理解しても、親御さんの中には、塾選びに迷う意見も出てきそうですよね。例えば、勝手に代弁するならば、「確かに、教養は大事。だけど、ウチの子、勉強しないのよ、とりあえず学校の成績だけでもさえなんとかしてよ。そんな悠長なこと言っていて中学浪人したらどうすんのよ。そんな受かった大学生が立派なこと言っても意味ないわよ」という意見もありそう。

望月：あ、ありますね。分かります（笑）。でも、それはこれから塾としての実績を出して不安を解消していただくしかないでしょう。

たとえば、基礎的なコミュニケーション能力、論理力があれば、大学生・大学院生と十分会話できるようになります。あとは、子供が年長者との会話の中から勝手に知識を吸収し、自分で体系化し将来の目標へとつなげていくんです。

さらに、右脳のひらめきを育成する図形処理の体系的プログラムも導入済みで、それへの長期継続的な取り組みを通じて、言葉では表現できない空間認識などの数学的イメージなど学習センスや、根気よく諦めずに思考し続けるという学習習慣を文字通り体得します。そこにはプロスポーツ選手の技術と通じるレベルのものがあると思います。

もちろん、定義、法則や用語、史実など必須の知識はしっかり覚えてもらわなければいけません。そこは、頭に染み込むまでしつこくやるのだよ、とその重要さ自



体を刷り込みます。どのように覚えていくかのちょっとしたヒントは与えたりしますが、やりかたは個々に工夫させます。

学習開始時には、まずはベースとなる部分を徹底しながらも、予告的にその分野の学問的体系の美しさや面白さを伝える仕掛けが効果的です。勉強とは本来面白いものです。だって知らなかったことを知るようになるのですから。案外面白いなと気づけば、干し草に火がついたように一気に意欲が燃えます。学校ではどん尻集団の常連だった生徒に火がついて成績が急上昇していくのは数えきれないほど経験済みです。

## 大学入試の問題を見ていれば分かる、メッセージ

---

——現実問題として、いわゆる大学受験に対してどのようなスタンスなのでしょうか？

**望月**：日本の高校には、入学時の偏差値が高いのに大学入試では今ひとつ結果を出せないタイプの高校があります。何故か、おそらくそこでは、普段の授業でも受験対策でも、「知識」とそのちょっとした応用で答えられる問題、すなわち、正解の求まる問題もしくは模範解答を作成できる問題を大量に与えるばかりで、答えを見つけることが困難な課題や未知の課題を自分で考え抜く習慣を身につける暇を与えていないからでしょう。知っているか否かだけを過大に評価する授業とその達成度測定としての試験をいまだに続けているからです。でも、大学側は特にここ数年かなり意識変化の見て取れる出題をしてきています。時代の危機意識の現れでしょうね。だから余計にそのギャップは広がるばかりです。

興味深い話ですが、「変革できない」と言われ続けた国立大学さえ、この数年、試験内容を大きく変えているのです。その変化のメッセージは、普通の教師なら読み解けると思いますが、要は、知識ではなく問題を読み解く下地を問いますよ、とちゃんと明言しているのです。それは設問の作り方から分かります。ところが、親



や予備校、高校、さらには中学の対応が遅いですね。これが伝統ある中高一貫校であるほどその事情は大変だろうなと拝察します（笑）

私たちは有名大学合格を目的とする塾ではありませんが、普遍的に通用する知性創造を目標に掲げる以上、学科指導面でも基本レベルからトップ校レベルまで対応します。

## どう思う？ 21時以降、スマホ禁止

---

——ところで最近、愛知県刈谷市内の小中学校では「21時以降、スマートフォンや携帯電話の利用が禁止」になりましたよね。新聞によると、PTA連絡協議会などから要請を受け、市内の各小中学校が、4月のPTA総会で保護者へ呼びかけたといいますが、そもそもの発案は「刈谷市児童生徒愛護会」という組織。この組織は各学校の生活指導の先生や、警察署生活安全課の署員、幼稚園の理事らで構成されている。

刈谷市によると「スマートフォンや携帯電話への問題提起は、現場である学校の先生たちから声上がり、それを学校長らが教育委員会などに吸い上げた」とのこと。つまり、現場の先生たちが子供たちのケータイ依存やそれにまつわるコミュニケーショントラブルを問題視していたんだけど、「学校独自でスマートフォンや携帯電話を禁止するという判断は、なかなかできるものではない」ので、結局、愛護会が提案する体裁で、PTA協議会との連名で、市内の学校やPTAにお願いするという形を取ったということなんですが・・・、この件、「学校が携帯電話の使用を禁止する」ことについてどう思いますか。

**望月**：LINEなどのSNSとその依存性について、普段からあれこれ考えています。この件も考えあぐねていますが、五月雨的に私見を申し上げますと、まず、スマホをいじるための言い訳はいっぱいあります。「メールに早く返信した方がいいから」「LINEだけやっているわけではないから」「お得情報を検索しているだけだから」「英語のリスニングしているのだから」「新しいゲームアプリができたから」など、TPOに応じた免罪符が使えますね。

スマホに没頭するあまり、本来有意義に使えるはずの時間、体力、気力、金銭を浪費し、日常生活に支障を来し、家族関係をも悪くするわけです。アルコールやギャンブルなどの典型的な依存症と同じ状態です。大人にも同様の影響力がありますね。たとえば、かつてたまごっちやマリオなどにはすぐ飽きてしまった私の娘、今は社会人ですが、ここ数年はヒマさえあればスマホをいじっています。子供の頃は読書好きでしたが、今ではそんな時間もないようで、文芸作品の読了感を親子で語り合う楽しみなどまさに昔物語です。

中でも、SNS（交流サイト）というのは便利なツールで、私も毎日欠かさず利用していますが、いつでもどこでも情報発信できる半面、これ自体にはステップアップや目的達成など、プロセスを体験してから完結するという要素がないんです。際限なく続く情報のやり取り。今主流のSNSでは、自分の見聞を友達がいいね！と認めてくれた、といった程度の刹那的な満足を得られるに過ぎないと実感しています。その程度のものでありながら、あまりに習慣性・依存性が強いのではないのでしょうか。

一方で、こんなものは所詮情報ツールの1つだと割り切り、使う必要がないときはシャットダウンできる人もいます。ただ、判断力の未熟な子供にシャットダウンできるかどうか。LINEで言えば、友達とのトークをさっと切りあげる勇氣はあるのか。難しいでしょう。

スマホは高機能・多機能であるがゆえ、倦むことなく使い続けることができる。そして、子供の成長に必要な経験のための貴重な時間を容赦なく奪う。人間形成途上にある子供に対し、あまりに影響力が強過ぎます。

以上のような負の側面の大きさ・取り返しのつかなさを考えると、子供の可塑性を考えてもなお遠ざけておくべきものだと思います。特にLINEは便利な反面、他者依存になる傾向、グループ単位でのいじめに転化しやすい点などが未解決ですよ

ね。

なので、小中学生LINE夜間禁止は、タバコ禁止の規制趣旨と同様に、未発達な子供の自己加害を抑制するために、原則自由なネット通信へ加えた例外的規制として、必要でやむを得ない措置だと考えます。

ただし、今回の事例は、実質的に学校側からの規制であるのに、第三者機関からの要望という体裁を装った手続き面に問題が残ると思います。

——なるほど。

**望月**：繰り返しになりますが、原則「自由」とされる事項に公的規制が課せられ、それに対し人々があまり疑問を抱かずに従っていくという図式に対し、強い警戒感を感じます。そういう思いからも、様々な事柄について多数意見に流されるのではなく自分で熟慮し、その善し悪しを判断でき、バランスの取れた意見を発信できる人間を少数でも育てたいです。そのための第三の学びの場を、皆が求めているのではないかと思っています。

## | このコラムについて

### キーパーソンに聞く

日経ビジネスのデスクが、話題の人、旬の人にインタビューします。このコラムを開けば毎日1人、新しいキーパーソンに出会えます。